

第6学年 音楽科学習指導案

福岡市立〇〇小学校

教諭 〇〇 〇〇

単元名： 曲想を感じ取ろう「ノンストップ・クラシックメドレー」

1. 指導観

- 本単元は曲想を味わって聴いたり、楽曲の気分を味わって演奏したりしながら、音楽を想像力豊かにとらえる感性や、表情豊かな表現を工夫していく能力を育てることをねらいとしている。子どもたちが、一度は聴いたことのある曲を短くメドレーにした、この『ノンストップ・クラシックメドレー』は、音楽に苦手意識を持っている子や、うまく演奏できずに練習から逃げ出しがちな子にも、演奏する楽しさを感じやすい題材である。ピアノ、バスキー、アコーディオンなどの鍵盤楽器、大太鼓、コンガ、シンバルなどの打楽器、木琴、鉄琴の木管・金管楽器、そしてリコーダーの吹奏楽器と、一人一楽器を担当し、合奏していく。同じ種類の楽器ごとにグループを作り、グループ活動をしていく。苦手意識を軽減させるため、音符は読める子に書いてもらったり、メロディが分からない時には、弾くことができる子が助言したりしながら、活動を進める。たくさんの楽器があるため、教師の指導だけでは不十分である。しかしそのことがかえって、身近な友達に尋ねる、お互い助け合うといった活動へと広がり、子どもたちの人間関係づくりを助ける取り組みにつなげることができると考える。

- 本学級の子どもたちは、4年生の学習発表会で合奏を経験しており、楽器を演奏する楽しさや、みんなで一つの楽曲を完成させていくことの大変さも味わっている。6年生となり学校全体のお世話をする立場となったが、自己中心的な考え方をする子も多く、みんなで何かをする際「あいつがおるけん、成功せん」「がんばらんけん、いかんっちゃん」と相手を否定しがちで、毎回話し合いを重ねながら、様々な学校行事に取り組んできた。今回の「ノンストップ・クラシックメドレー」は、11月の学習発表会で、下級生やお家の方に向けて演奏することを目標としている。学習の中で出てきた課題は、教師が介入して解決する割合を少なくし、グループ内もしくは学級全体で子どもたち自身が解決していけるよう仕組んでいきたい。考えられる課題は、以下の三つである。
 - ・楽器をうまくひくことができずに、練習を途中でやめる。
 - ・周りの人と合わせずに、自分勝手に演奏(練習)をする。
 - ・友達の演奏(練習)の邪魔をする。

- 本単元の指導にあたっては、子どもたちが活動しやすいよう「練習する曲を知る→グループごとに練習をする→全員で合奏する・パートごとのミニ発表会をする→グループごとに反省会をする→全体交流をする」と、学習の流れを毎時間一定にする。全体的に楽譜を読める子は少ないが、音楽を耳から感覚的にとらえるのが得意な子は多い。そこで、練習を始める前に曲想を確認し、活動に入ることで、ロずさみながら練習することができ、苦手意識のある子の意欲も高めることができると考える。

具体的な三つの手立てとして一つ目は、学習形態の工夫をする。同じ仲間の楽器は演奏が似ており、共に助け合って練習することができるので、学習形態は小グループを基本とする。グループでの練習時間では主に個人練習となるが、分からないときに教師に聞くだけでなく、グループの友達にも聞くよう指示する。そこで、子ども同士の間関係ができ、友達のよさに気づくことができる。二つ目に、子どもたちがつくり出すであろう「学習材」の予測と準備をする。学習を進めていく中で出てくる課題や言動などを「学習材」としてとらえる。例えば、演奏の難しい場所(リズムや旋律)、教え合っているときの会話、練習前後の演奏などである。教師は子どもたちが直面した課題を、学び成長するための「学習材」としてとらえ、予想される課題への解決策を準備しておく。三つ目に、振り返り活動の工夫をする。まず、各自振り返りカードを記入する。振り返りカードには、個人の振り返りと友達のがんばりを振り返る項目を設ける。次に、グループごとに、次時学習のめあての確認をする。その後、全体で振り返りをし、各グループのめあてを発表する。発表者は毎回異なるようにし、全員が反省を述べる機会を設ける。教師は、活動の中で見つけた子どもたちのがんばりを紹介し、他のグループの様子も伝えるようにする。また、グループ練習の成果を認め合えるよう、全体練習の中でパートごとの演奏を聴く時間も作る。他のパートの旋律を知り、それぞれが重なってみんなで楽曲を作り上げているということを確認することで、連帯感や責任感を高めたり、友達のがんばりを認めたりすることができると思う。

2. 単元の目標

- 曲想を感じ取って、想像豊かに聴いたり表情豊かに表現したりすることができるようにする。
- 曲想を生かして、表現の仕方の工夫をすることができるようにする。
- 【意欲・態度】 ○ 友達と協力しながら音楽活動への意欲を高め、楽しく練習や演奏をしている。
- 【表現の能力】 ○ 旋律の動きから曲想を感じ取って、気持ちを込めた表現の工夫をしている。
- 【鑑賞の能力】 ○ 曲想の変化を感じ取ったり、移り変わっていく響きを味わったりしながら聴くことができる。

3. 単元計画 (全 17 時間)

時	目標	学習活動	協同の活動の工夫 ア) 学習形態 イ) 学習材 ウ) 振り返り活動
1 「自分の担当する楽器を決めよう」【2時間】			
1	○楽譜を作り、楽曲の全体像を知ることができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・曲の順番通りにプリントをつなげ、楽譜を作る。 ・主となる演奏の範奏を聴き、楽曲の全体構成を知る。 ・自分の演奏したい楽曲を考えながら聴く。 	<ul style="list-style-type: none"> イ) 楽譜を作っている間の周りの友達との会話。 ウ) 範奏を聴きながら、担当する楽曲を考える。

2 3	○担当する楽器を決め これからの活動への 意欲を高めることが できる。	<ul style="list-style-type: none"> 各楽器の希望者ごとに、話し 合いまたはオーディションを し、担当する楽器を決める。 「ピアノ協奏曲第1番(チャイ コフスキー)」の練習をグルー プごとにする。 全体で合奏する。 活動の振り返りをする。 	<p>ア) 担当楽器別グループ活動。</p> <p>イ) ・グループ別活動中の教え 合い。 ・ピアノによる範奏。</p> <p>ウ) ・パートごとのミニ発表会。 ・全体合奏での活動の振 り返り。</p>
2 「楽曲ごとの旋律を覚えながら楽しく演奏しよう」【8時間】			
4	<p>○友達と協力し楽しく 活動することができる。</p> <p>○自分の担当するパー トの旋律を練習し、 演奏することができる。</p> <p>○友達の演奏を聴き、 よいところを見つけ 自分の活動へと生か すことができる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 「四季・春(ヴィヴァルディ)」 の主旋律を聴き、曲想を感じ 取る。 グループごとに練習をする。 全体で合奏する。 パートごとにミニ発表会をし、 友達の演奏を聴く。 反省会をする。 全体で活動を振り返る。 	<p>ア) 担当楽器別グループ活動。</p> <p>イ) ・グループ別活動中の教え 合い。 ・練習中に出てきた課題。 (テンポ、リズム、指使い)</p> <p>ウ) ・パートごとのミニ発表会。 ・全体合奏での活動の振り返 り。 ・反省会、振り返りカードの 記入。 ・全体での交流</p>
5		<ul style="list-style-type: none"> 「ウイリアムテル序曲(ロッシ ーニ)」の主旋律を聴き、曲想 を感じ取る。 グループごとに練習をする。 全体で合奏する。 パートごとにミニ発表会をし、 友達の演奏を聴く。 反省会をする。 全体で活動を振り返る。 	<p>ア) 担当楽器別グループ活動。</p> <p>イ) ・グループ別活動中の教え合 い。 ・練習中に出てきた課題。 (テンポ、リズム、指使い)</p> <p>ウ) ・パートごとのミニ発表会。 ・全体合奏での活動の振り返 り。 ・反省会、振り返りカードの 記入。 ・全体での交流</p>
6		<ul style="list-style-type: none"> 「弦楽四重奏曲第3番“皇帝” (ハイドン)」の主旋律を聴き、 曲想を感じ取る。 グループごとに練習をする。 全体で合奏する。 パートごとにミニ発表会をし、 友達の演奏を聴く。 	<p>ア) 担当楽器別グループ活動。</p> <p>イ) ・グループ別活動中の教え 合い。 ・練習中に出てきた課題。 (テンポ、リズム、指使い)</p> <p>ウ) ・パートごとのミニ発表会。 ・全体合奏での活動の振り返</p>

		<ul style="list-style-type: none"> ・反省会をする。 ・全体で活動を振り返る。 	<ul style="list-style-type: none"> り。 ・反省会、振り返りカードの記入。 ・全体での交流
7	<p>○友達と協力し楽しく活動することができる。</p> <p>○自分の担当するパートの旋律を練習し、演奏することができる。</p> <p>○友達の演奏を聴き、よいところを見つけ自分の活動へと生かすことができる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「ハンガリア舞曲第5番(ブラームス)」の主旋律を聴き、曲想を感じ取る。 ・グループごとに練習をする。 ・全体で合奏する。 ・パートごとにミニ発表会をし、友達の演奏を聴く。 ・反省会をする。 ・全体で活動を振り返る。 	<p>ア) 担当楽器別グループ活動。</p> <p>イ) ・グループ別活動中の教え合い。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・練習中に出てきた課題。(テンポ、リズム、指使い) <p>ウ) ・パートごとのミニ発表会。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全体合奏での活動の振り返り。 ・反省会、振り返りカードの記入。 ・全体での交流
8 9		<ul style="list-style-type: none"> ・「ピアノ協奏曲イ短調(グリーグ)」 「交響曲第6番“田園”(ベートーベン)」 「交響曲第5番“運命”(ベートーベン)」 「ハレルヤ(ヘンデル)」の主旋律を聴き、曲想を感じ取る。 ・グループごとに練習をする。 ・自分の担当するパートが終わったグループは、既習の楽曲を復習する。 ・パートごとにミニ発表会をし、友達の演奏を聴く。 ・反省会をする。 ・全体で活動を振り返る。 	<p>ア) 担当楽器別グループ活動。</p> <p>イ) ・グループ別活動中の教え合い。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・練習中に出てきた課題。(テンポ、リズム、指使い) <p>ウ) ・パートごとのミニ発表会。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全体合奏での活動の振り返り。 ・反省会、振り返りカードの記入。 ・全体での交流
10 11 本 時		<ul style="list-style-type: none"> ・交響曲第9番“合唱”(ベートーベン)」の主旋律を聴き、曲想を感じ取る。 ・グループごとに練習をする。 ・全体で合奏する。 ・パートごとにミニ発表会をし、友達の演奏を聴く。 ・反省会をする。 ・全体で活動を振り返る。 	<p>ア) 担当楽器別グループ活動。</p> <p>イ) ・グループ別活動中の教え合い。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・練習中に出てきた課題。(テンポ、リズム、指使い) <p>ウ) ・パートごとのミニ発表会。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全体合奏での活動の振り返り。 ・反省会、振り返りカードの

			記入。 ・全体での交流
3 「曲想に合わせた表現の工夫をし、合奏しよう」【4時間】			
12 13 14 15	○友達と協力し楽しく活動することができる。 ○曲想の変化を感じ取りながら、表現の仕方を工夫することができる。 ○他のパートの旋律と合わせながら合奏することができる。 ○曲想の変化を感じ取ったり、移り変わっていく響きを味わったりしながら聴くことができる。	・全体で合奏をし、前時学習を振り返る。 ・グループごとに練習をする。 ・全体で合奏する。 ・パートごとにミニ発表会をし、友達の演奏を聴く。 ・反省会をする。 ・全体で活動を振り返る。	ア) 担当楽器別グループ活動。 イ) ・グループ別活動中の教え合い。 ・練習中に出てきた課題。(テンポ、リズム、指使い) ウ) ・パートごとのミニ発表会。 ・全体合奏での活動の振り返り。 ・反省会、振り返りカードの記入。 ・全体での交流
4 「心を込めて観客に伝えよう」(学習発表会)【1時間】			
16	○楽しく演奏することができる。 ○気持ちを込めた表現の工夫をすることができる。 ○友達の音や指揮に合わせて演奏することができる。 ○曲想の変化を感じ取ることができる。	・今までに学習したことを思い出しながら演奏を楽しむ。	ア) 一斉学習。 イ) ・発表会前の子どもたちの会話。 ・練習中に出てきた課題。(テンポ、リズム、指使い) ウ) ・全体合奏での活動の振り返り。
5 「学習を振り返ろう」【1時間】			
17	○学習発表会当日の様子を思い浮かべながら学習を振り返ることができる。 ○学習の感想を書き、進んで発表することができる。 ○自分や友達のがんば	・学習発表会の映像を見ながら学習を振り返る。 ・反省会をする。 ・全体交流をする。	ア) ・一斉学習。 ・担当楽器別グループ活動。 イ) ・学習発表会の映像。 ・練習中に出てきた課題。(テンポ、リズム、指使い) ・反省会や全体交流の中に出てきた子どもたちの振り返り。

	りを認めることができる。		ウ)・反省会、振り返りカードの記入。 ・全体での交流
--	--------------	--	-------------------------------

4. 本時 平成 22 年 10 月 日(木) 校時 於 音楽室

5. 本時の目標

- (意欲・態度) 友達と協力し、楽しく活動することができる。
- (表現の能力) 「交響曲第 9 番“合唱”(ベートーベン)」で、自分が担当するパートの旋律を練習し、演奏することができる。
- (鑑賞の能力) 友達の演奏を聴き、よいところを見つけ、自分の活動へと生かすことができる。

6. 本時指導の考え方

- 本時学習では「ノンストップ・クラシックメドレー」の最後の楽曲の練習に入る。前時学習で練習した 4 曲は、打楽器とピアノが主に旋律を担当しているので、他の楽器を担当する子どもたちは、今までに学習した楽曲を復習する時間を持つことができた。グループごとに苦手な楽曲が違うので、復習の時間を設けることで、より自分たちの課題にあったグループ練習をすることができている。
- 今回練習する「交響曲第 9 番“合唱”(ベートーベン)」は、年末によく耳にする楽曲である。メドレーの最終曲にふさわしく、堂々と演奏するよう助言する。クライマックスの部分は少し難しいので、そこに差し掛かるところまでを、全体で合奏できるよう目指す。ただ、それぞれの担当楽器により難易度が違うので、自分なりの演奏ができたことを認め、次時学習へとつなげる。担当楽器ごとに気をつける点は以下の通りとする。

【リコーダー、鍵盤ハーモニカ、アコーディオン、グlocken、木琴】

- ・ 急ぎすぎないように、一つ一つの音をはっきりと演奏する。

【コンガ、カバサ、大太鼓、小太鼓】

- ・ 休符に気をつけて、リズムよく演奏する。

【オルガン】

- ・ 長い休符に気をつけ、入るところを間違えないように、バスキー・ピアノと合わせながら演奏する。

【バスキー・ピアノ】

- ・ バスキーとピアノ(左手)リズムが、同じになるように気をつけ、ピアノ(右手)で旋律を確認しながら演奏する。

- 本時学習の指導にあたっては、三つの協同の活動の工夫を通して指導・助言をしていく。まず、学習形態の工夫である。前時学習までと同様に、担当楽器別グループ活動を中心に練習を進める。同じ旋律を弾いている友達が近くにいることで、リズムや音程が分からないときには

すぐに質問することができ、モチベーションを下げることなく活動を進めることができる。また、友達の頑張りもすぐ近くで見ることができ、友達のよさにも気づくことができると考える。しかし、他の楽器の音が耳に入ること集中できず、グループから離れて個人練習をする子もいるので、それは認める。授業全体を通すと、必ず友達と関わる場面があるので、グループ学習だけにこだわらず、その子の学習しやすい環境を認めてあげたい。学習の最後は全員で合奏する、一斉学習の形態を用いる。他のパートの旋律を聴くことで、違うグループの友達の練習の成果を知り、次時学習への意欲を高めたい。次に、学習材の把握である。グループ学習の中で生まれた課題や子どもたちの姿は、グループ練習はもちろん、全体合奏や交流の場で全体化し、学びへとつなげる。予想される学習材と、それに対する支援は、教師が考えられるだけ十分に予想し、活動の中で適切な助言ができるよう準備しておく。最後に、振り返り活動の工夫である。振り返りカードによる個人の振り返り、グループ別反省会での次時学習のめあて作り、全体での交流をすることで、さらに自分や友達の頑張りやよさに目を向けさせる手立てとしていく。

【本時学習において予想される学習材】

(子どもの姿)

- ・ 練習が思うように進まない
- ・ 友達の演奏の邪魔をする
- ・ 教師ばかりをたよる
- ・ 上手なアドバイスや教え合い

(演奏)

- ・ 上手な演奏 (リズム・指づかい)
- ・ うまくできない演奏 (リズム・指づかい)

(振り返り)

- ・ グループ反省会での子どもの会話
- ・ 振り返りカードのコメント
- ・ 各グループのめあて
- ・ 全員での合奏

7. 準備

教師：指揮棒、リコーダー、学習プリント

児童：自分が使う楽器、楽譜、音楽ノート

8. 本時の展開

配時	学習活動	めざす子どもの姿	教師の支援
5分	1. 前時学習を振り返り、 本時学習のめあてを確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;">交響曲第9番“合唱” の旋律を覚えながら 練習しよう。</div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 主旋律を聴く。 ・ グループのめあての確認をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学習する内容を確認しながら、先生の話聞いている。 ・ ピアノの演奏を静かに聴いている。 ・ 前時学習を振り返っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 前時学習のがんばりを紹介し、本時学習への意欲を高める。 ○ 打楽器は主旋律のメロディを確認させ、グループ練習の際、個別にリズムを教える。 ○ グループのめあてを意識させ、活動へ入るよう助言する。
15分	2. 各グループで練習をする。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 練習に励んでいる。 ・ 分からないところはグループの友達に進んで質問している。 ・ 友達に優しくアドバイスをしている。 ・ 困ったときは先生に質問している。 ・ 楽しく活動をしている。 ・ 友達のがんばりを認めている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 前時学習で、停滞しがちだったグループに個別指導をする。 ○ 一つのグループにとどまる時間をできる限り短くし、様々な子どもの姿を観察し、指導へと生かす。 ○ 予想していた学習材を子どもが生み出した際は、学習が深まるよう助言し、その後を観察する。
15分	3. 練習の成果を確認する。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 全員での合奏 ・ ミニ発表会 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 楽しく演奏している。 ・ 友達の演奏を静かに聴いている。 ・ 友達のよさを見つけながら演奏を聴いている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 練習の中でがんばっていた姿を紹介し、ミニ発表会をする。
10分	4. 本時学習を振り返る。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 振り返りカード ・ 反省会 ・ 全体交流 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 反省会で進んで発表している。 ・ 友達のをよさを認めている。 ・ 次時学習への意欲を高めている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 楽しく演奏したり静かに聴いたりしている姿を賞賛する。 ○ 次時学習では、最後の部分を中心に練習し、この楽曲を完成させていくことを伝える。